

令和3年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 二島 小学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和3年6～7月に、5年生を対象として、「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。運動習慣は、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本年度、本市においては「体力・運動能力」についての調査は実施していません。

1. 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の目的

- (1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

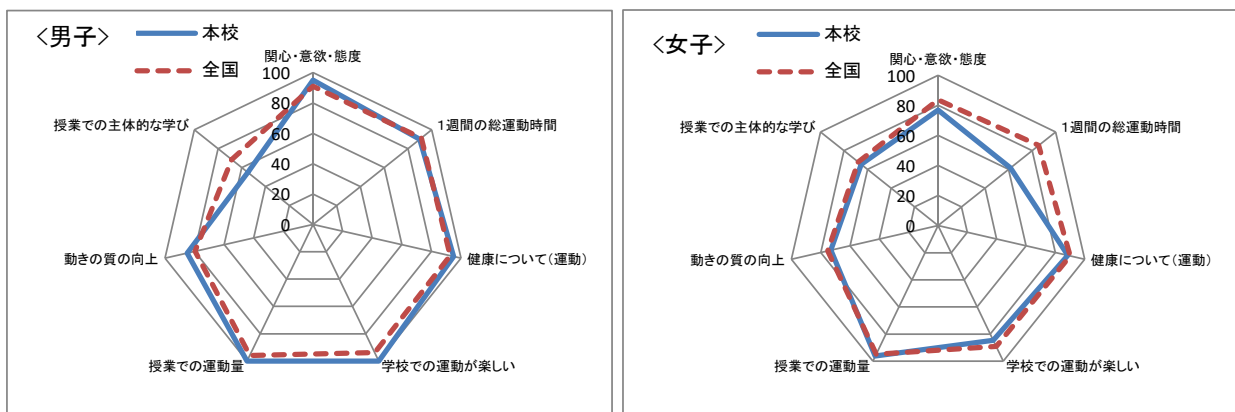
2. 本市における調査内容

- (1) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

3. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査レーダーチャート



質問紙調査の結果分析

どの項目もほぼ全国平均並みであるが、男子の「授業での主体的な学び」と女子の「1週間の総運動時間」については、全国平均を下回る結果となっている。授業中に自分なりの目標を立てて取り組んでいなかったり、健康・運動の意義を理解しているが実際の行動に移していなかったりすることが原因として考えられる。教師や友達に技のポイントなどを教えてもらうことで、できるようになる実感を味わうことができているので、体育の学習時間だけでなく日常生活の中でも運動に親しむ機会をもつ必要がある。

4. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

児童一人一人が体を動かす楽しさや喜びを実感し、達成感を得ることができるようにするために、児童相互が関わり合ったり、児童それぞれの実態に応じた段階的な手だてを講じたり、ゲーム性を取り入れたりする授業展開の工夫を行う。

② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

体育授業の準備運動では、体力向上プログラムを活用しジャンプアップ運動等を必ず取り入れたり、1単位時間の中で6割以上の運動時間(運動量)を確保したりして、児童の体力向上を図る。
跳躍力や投げる力の向上のための場を運動場に整備し、児童が遊びながら運動に親しむことができる場の設定の可能性を探り、整備していくようにする。